

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成27年5月8日

**【四半期会計期間】** 第4期第1四半期(自平成27年1月1日至平成27年3月31日)

**【会社名】** アートsparkホールディングス株式会社

**【英訳名】** ArtSpark Holdings Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役会長兼社長 川上陽介

**【本店の所在の場所】** 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

**【電話番号】** 03-3710-2985

**【事務連絡者氏名】** 取締役 伊藤賢

**【最寄りの連絡場所】** 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

**【電話番号】** 03-3710-2985

**【事務連絡者氏名】** 取締役 伊藤賢

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第3期 第1四半期 連結累計期間	第4期 第1四半期 連結累計期間	第3期
会計期間	自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日	自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日	自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日
売上高 (千円)	812,590	1,008,661	3,826,206
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	74,066	35,624	93,621
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失 ( ) (千円)	64,320	17,186	59,958
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	66,039	18,008	54,204
純資産額 (千円)	2,237,838	2,382,025	2,362,802
総資産額 (千円)	3,490,599	4,063,461	3,969,974
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額 ( ) (円)	9.68	2.58	9.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		2.55	8.99
自己資本比率 (%)	63.0	57.5	58.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第3期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成27年1月1日～平成27年3月31日）における我が国経済は、円安傾向の継続による一部企業の収益押上げや消費増税先送り等により緩やかな回復基調で推移しております。しかしながら、不安定な国際情勢、原材料価格の上昇等の影響により、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループは「デジタル“ものづくり”」の応援と支援を経営理念に掲げ、イラスト、アニメ、マンガをはじめとするグラフィクスコンテンツや、デジタル機器のユーザーインターフェースのデザイン等、一般個人の趣味からプロフェッショナル仕様に至るまで幅広くデジタルでの“ものづくり”を支援する企業グループであります。デジタルによるコンテンツの制作と利用が一般に普及する社会において、引き続き重要なポジションを担い続けられるよう当社グループの強みであるグラフィクス関連技術とサービス開発の相乗効果を最大限に活かした事業活動を推進しております。

当連結会計年度におきましては、前期より黒字化したクリエイターサポート事業、前期中に株式会社エイチアイ関西及び株式会社U'eyes Designを孫会社化したUI/UX事業を中心に注力し、販売・営業活動の推進や提供サービスの拡充を図りながら業容拡大に努めてまいります。

その結果、当社グループの第1四半期連結累計期間の売上高は1,008,661千円（前年同期比24.1%増）、営業利益は47,833千円（前年同期は66,019千円の営業損失）となりました。

また、経常損益につきましては、支払利息3,624千円、持分法による投資損失7,195千円を計上したこと等により、35,624千円の経常利益（前年同期は74,066千円の経常損失）となりました。純損益につきましては、投資有価証券売却損10,546千円の計上等により、17,186千円の四半期純利益（前年同期は64,320千円の四半期純損失）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

#### <コンテンツソリューション事業>

コンテンツソリューション事業の中心である携帯電話市場におきましては、平成26年12月末で国内携帯電話加入契約数が1億4,505万台（前年比6.2%増）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）また、平成26年12月末における国内のスマートフォン契約数の占める割合は、フィーチャーフォンとスマートフォンの合計契約件数の52.3%と過半数を超える等、スマートフォンの普及が拡大しておりますが、平成26年1月から12月の1年間における出荷台数状況を見ますと、スマートフォンは前年比で5.3%減少、フィーチャーフォンが5.7%の増加となっております。（株式会社MM総研発表より）

このような経営環境の中、電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」を利用して、株式会社アムタスの電子書籍配信サービス「めちゃコミック」でライトノベルの配信が開始されました。なお、「BS Reader for Browser」が利用されている電子書籍配信サービス数は、平成27年3月末では910サービス超となっております。

以上の結果、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進するコンテンツソリューション事業の売上高は272,724千円（前年同期比5.5%減）、営業利益は13,753千円（前年同期比86.7%増）となりました。

#### <クリエイターサポート事業>

当第1四半期連結累計期間では、ペイントソフトウェア「CLIP STUDIO PAINT」の出荷本数が累計100万本を超える等、初心者からプロのクリエイターまで幅広いお客様にご利用いただけるソフトウェアとなりました。また、英語版・中国語版・フランス語版・スペイン語版を海外向けに販売、出荷本数の35%が国外のクリエイターにご利用いただいております。グローバルスタンダードなソフトウェアとなっております。

なお、クリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」においては、平成27年3月末時点の登録者数は50万人となっております。

以上の結果、売上高は212,564千円（前年同期比23.0%増）、営業利益は32,140千円（前年同期は449千円の営業利益）となりました。

#### <UI/UX事業>

当第1四半期連結累計期間では、「デザインエンジニアリング」をテーマに、自動車（四輪・二輪）関連分野を筆頭に、株式会社エイチアイが開発した、次世代UIオーサリングツール「exbeans UI Conductor（エクスピーーンズユーアイコンダクター）」の販売活動に注力すると共に、受託開発及び製品保守サポート案件における製造原価の削減を推進しております。

また、株式会社エイチアイ関西は前連結会計年度の第2四半期から、株式会社U'eyes Designは同第3四半期からそれぞれ孫会社としているため、当第1四半期連結累計期間につきましては2社合計で272,487千円、前年同期間より売上高が増加しております。

以上の結果、売上高は515,145千円（前年同期比69.2%増）、営業損益は527千円の営業利益（前年同期は99,921千円の営業損失）となりました。

#### <アプリケーション事業>

アプリケーション事業につきましては事業縮小を進めており、売上高は8,226千円（前年同期比82.4%減）、営業損益は594千円の営業損失（前年同期は15,565千円の営業利益）となりました。

### （2）財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて93,486千円増加し4,063,461千円となりました。この主な要因は、ソフトウェアが58,478千円、投資有価証券が17,719千円減少した一方で、受取手形及び売掛金が50,559千円、仕掛品が50,215千円、ソフトウェア仮勘定が86,596千円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて74,264千円増加し1,681,436千円となりました。この主な要因は、買掛金が43,483千円、未払法人税等が15,224千円、長期借入金が28,833千円減少した一方で短期借入金が207,953千円増加したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて19,222千円増加し2,382,025千円となりました。この主な要因は、新株予約権が1,778千円、利益剰余金が17,186千円増加したこと等によるものであります。なお、自己資本比率は、57.5%となりました。

### （3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

### （4）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、4,345千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年5月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,647,375	6,648,005	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、剰余金の配当に関する請求権その他の権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式です。なお、当社は種類株式発行会社ではありません。 普通株式は振替株式であり、また、単元株式数は100株です。
計	6,647,375	6,648,005		

(注) 1. 平成27年4月1日から平成27年4月30日までの間に、新株予約権(ストック・オプション)の権利行使により、発行済株式数が630株増加しております。

2. 「提出日現在発行数」欄には、平成27年5月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年1月1日～ 平成27年3月31日		6,647,375		1,003,158		482,285

(注) 平成27年4月1日から平成27年4月30日までの間に、新株予約権の行使により発行済株式総数が630株、資本金及び資本準備金がそれぞれ206千円増加しております。

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成27年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,608,600	66,086	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。なお、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 36,975		
発行済株式総数	6,647,375		
総株主の議決権		66,086	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、自己保有株式が85株含まれております。

## 【自己株式等】

平成27年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アートスパークホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿4-15-7	1,800		1,800	0.02
計		1,800		1,800	0.02

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりです。

## (1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
代表取締役社長		川端 一生	平成27年4月1日
取締役		星 和彦	平成27年4月1日

## (2) 役員の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役会長兼社長	取締役会長	川上 陽介	平成27年4月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,086,746	1,072,278
受取手形及び売掛金	880,145	930,705
製品	13,135	9,990
仕掛品	63,502	113,717
原材料及び貯蔵品	60,899	50,787
その他	126,707	142,392
貸倒引当金	16,381	13,104
流動資産合計	2,214,755	2,306,768
固定資産		
有形固定資産		
建物	125,714	125,834
減価償却累計額	85,389	87,029
建物(純額)	40,325	38,805
工具、器具及び備品	241,945	245,012
減価償却累計額	210,718	214,274
工具、器具及び備品(純額)	31,227	30,738
有形固定資産合計	71,552	69,543
無形固定資産		
ソフトウェア	917,595	859,117
ソフトウェア仮勘定	241,832	328,428
のれん	134,174	126,137
その他	32,774	31,924
無形固定資産合計	1,326,376	1,345,607
投資その他の資産		
投資有価証券	111,991	94,271
敷金及び保証金	201,394	194,325
その他	38,424	48,074
投資その他の資産合計	351,810	336,671
固定資産合計	1,749,740	1,751,822
繰延資産	5,478	4,870
資産合計	3,969,974	4,063,461



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	211,822	168,339
短期借入金	406,214	614,167
1年内返済予定の長期借入金	151,798	155,175
未払法人税等	23,978	8,753
返品調整引当金	3,149	1,724
賞与引当金	83,656	72,621
その他	360,599	319,407
流動負債合計	1,241,218	1,340,188
固定負債		
長期借入金	276,203	247,370
退職給付に係る負債	80,443	84,669
繰延税金負債	1,275	1,176
その他	8,031	8,031
固定負債合計	365,953	341,247
負債合計	1,607,172	1,681,436
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,003,158	1,003,158
資本剰余金	482,285	482,285
利益剰余金	832,467	849,654
自己株式	958	1,382
株主資本合計	2,316,952	2,333,714
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,296	1,421
その他の包括利益累計額合計	1,296	1,421
新株予約権	34,142	35,921
少数株主持分	10,410	10,967
純資産合計	2,362,802	2,382,025
負債純資産合計	3,969,974	4,063,461

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
売上高	812,590	1,008,661
売上原価	592,532	635,983
売上総利益	220,057	372,677
返品調整引当金戻入額	8,292	3,149
返品調整引当金繰入額	9,474	1,724
差引売上総利益	218,875	374,102
販売費及び一般管理費	284,894	326,268
営業利益又は営業損失( )	66,019	47,833
営業外収益		
受取利息	362	145
その他	67	1,093
営業外収益合計	430	1,239
営業外費用		
支払利息	2,233	3,624
為替差損	2,971	894
持分法による投資損失	1,110	7,195
その他	2,161	1,735
営業外費用合計	8,477	13,448
経常利益又は経常損失( )	74,066	35,624
特別利益		
新株予約権戻入益	101	
負ののれん発生益	13,849	
特別利益合計	13,951	
特別損失		
投資有価証券売却損		10,546
特別損失合計		10,546
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	60,115	25,077
法人税等	4,205	7,194
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	64,320	17,883
少数株主利益		696
四半期純利益又は四半期純損失( )	64,320	17,186

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	64,320	17,883
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,718	125
その他の包括利益合計	1,718	125
四半期包括利益	66,039	18,008
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	66,039	17,312
少数株主に係る四半期包括利益	-	696

## 【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)
減価償却費	131,857千円	143,820千円
のれんの償却額	1,747千円	8,036千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

## 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

## 2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)

## 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

## 2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	288,728	172,786	304,438	46,637	812,590		812,590
セグメント間の内部売上高 又は振替高		181			181	181	
計	288,728	172,967	304,438	46,637	812,771	181	812,590
セグメント利益又はセグメン ト損失( )	7,366	449	99,921	15,565	76,539	10,520	66,019

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社株式会社エイチアイが、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し子会社化したことに伴い、UI/UX事業において負ののれん発生益13,849千円を特別利益に計上しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	272,724	212,564	515,145	8,226	1,008,661		1,008,661
セグメント間の内部売上高 又は振替高	28				28	28	
計	272,753	212,564	515,145	8,226	1,008,689	28	1,008,661
セグメント利益又はセグメン ト損失( )	13,753	32,140	527	594	45,827	2,006	47,833

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額( )	9円68銭	2円58銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	64,320	17,186
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	64,320	17,186
普通株式の期中平均株式数(株)	6,643,812	6,645,239
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		2円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
(うち支払利息(税額相当額控除後)(千円))		
普通株式増加数(株)		78,950
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年5月8日

アートスパークホールディングス株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 新 居 伸 浩 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアートスパークホールディングス株式会社の平成27年1月1日から平成27年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成27年1月1日から平成27年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アートスパークホールディングス株式会社及び連結子会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。